

第4次総合計画 基本構想

(全員賛成で可決)

将来像
『みんなの力で 今 動きだす 鞍手』

キャッチフレーズ
『人の力が、地域の力』

それぞれ異なる人生観や価値観、将来への展望、地域への想いを持った人々が、目的を持って協力し地域社会を創っていかねばなりません。

これからのまちづくりに欠かせないのは、地域で暮らす「みんなの力」なのです。

「人」が支えてきたこの町は、これから「人と人」が地域社会のあらゆる場面で助け合い、力を合わせながら、暮らし、活動し、活力を生み出し、幸せを実感できるまちを目指して、今、動きだします。

本町では、平成8年3月に「第3次総合計画基本構想及び基本計画」を作成し、町の将来像である「やさしさと躍動感あふれる快適生活拠点都市鞍手」の創出に向け、総合的かつ計画的に各種施策を展開してきました。

現在、地方自治においては、住民と行政それぞれが役割や責任を分担し、互いに協力するパートナーシップによるまちづくりや、地方分権をはじめ行財政改革への対応など、自らの責任と行動による自立した行政運営の視点に立ったまちづくりが求められています。

このような状況の中、第3次の総合計画が目標年次を迎えたのを機に、第4次総合計画基本構想を策定しました。

この第4次総合計画は、平成27年を目標とした10年間の基本構想と平成22年を目標とした5年間の基本計画からなっています。

この基本構想は、4つの柱を設けて構成しています。

4つの柱

1. 地域に活力を

「いきいきとした個性のあるまちへ」

地域で暮らす人々がいきいきと活動するまちには「活力」が生まれ、鞍手町という地域を元気にします。

そのため、いきいきと活動するための舞台である都市基盤、生活環境、地域産業といった取り組みを推進し、「いきいきとした個性のあるまち」を目指します。

2. 人に感動を

「人を育て、文化を育むまちへ」

心豊かな人々が暮らす町には生活の様々な場面で感動を呼び起こし、そういう人々が集まり鞍手町という地域を支えています。

これからも心豊かな人を育てる教育、すべての人が生きがいを持って暮らすための生涯学習、すべての人を大切にする人権の視点での取り組みを推進し、「人を育て、文化を育むまち」を目指します。

3. 暮らしに安心を

「誰もが笑顔で暮らすまちへ」

地域で暮らす人々が、安心して暮らすことができる地域社会を構築することは言うまでもなくまちづくりの基本であり、地域で暮らす人々が支えあいながら、一人ひとりが健やかに暮らしていくための取り組みを推進し、「誰もが笑顔で暮らすまち」を目指します。

4. みんなでまちをつくる

「新たな時代をひらく協働によるまちづくり」

地方分権時代にふさわしい地域社会を構築するためには、行政と住民による「協働」によるまちづくりが不可欠であり、みんなでまちづくりを進めるための取り組みを推進し、新たな時代をひらく協働によるまちづくりを進めます。